

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671400236		
法人名	有限会社 おりの		
事業所名	グループホーム ほかほか		
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12-1		
自己評価作成日	令和5年2月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年3月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

徳島県最南端との海陽町穴喰地区に施設があり、施設周辺は海、山、があり施設前には水際公園も隣接しており自然に恵まれた場所にあり、入居者様のペースでゆっくりと過ごせる環境が整っている。医療面も協力医療機関との連携も密に図っており、看護師も配置されており、夜間等の急変時も連絡体制を整えている。近年は入居にあたり医療面でのニーズが高くなってきており、GHではあるも看取り支援に関しても取り組んでいる。住み慣れた地域で最期まで生活が送れるよう「温もりと安らぎのあるアットホームな生活を支援します」の理念に沿った支援を行っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海と山が近く、自然に恵まれた環境に位置している。近隣には、協力医療機関や同一法人が運営する他サービス事業所が併設している。医療面においては、毎日の往診や24時間対応可能な体制整備とともに、看取り支援も行うなど、利用者・家族等が安心・安全に生活することができるよう、協力医療機関と連携を図っている。また、災害対策として、年3回、火災や地震、津波等を想定した避難訓練を実施している。訓練を通じて、公道の整備状況等について、町に意見を伝えるなど、地域の環境整備にも取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出や地域交流等が難しいなかでも、各関係機関のもとを訪問し、事業所や利用者等の状況を報告するなど、関係性の継続に向けて積極的に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHぼかぼか開所時の理念が法人の理念となっている。理念に沿った、温かみのある支援が行えるよう朝礼後に職員で唱和を行っている。	事業所では、法人が掲げる理念に基づき、利用者が住みなれた地域で生活ができるよう支援することを目指している。毎日、朝礼の際に理念を唱和し、職員間で共有化を図っている。また、パンフレットにも記載し、利用者家族や地域に向けて、広く周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年に関してもコロナ感染対策として直接施設に訪問して交流は行えていないが、オンラインでの体操教室など隣接するデイサービスで行っていることに参加させて頂いたりしている。	事業所は、地域の一員として、近隣住民等と日常的に交流している。地域の消防団に職員が所属するなど、地域協力も行っている。感染症(コロナ等)の流行下においては、近隣住民から野菜等の差し入れを受けるなど、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が最後まで住み慣れた地域で生活が維持できるよう、入居するしないに限らず相談対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年も感染対策の兼ね合いで議場での開催は行えていないが、推進委員の皆さんに施設での感染対策の取り組みや現状の説明を2か月に1回書面で報告を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、書面を作成し、各委員のもとへ持参して、意見等を得ている。出された意見等について、職員間で協議・検討し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町等提出物がある場合は、直接窓口を持っていき顔見知りの関係を作り、情報共有などを行っている。	管理者は、定期的に、町の担当窓口を訪問している。訪問時には、事業所や利用者等の状況を報告している。また、利用者の状況に応じて、他の町の担当者とも連携を図るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼時に職員同士で話し合い、拘束なく快適に生活を送れているかの確認等を行っており、全体としても拘束に関する研修を行っている。	事業所では、年1回、身体拘束に関する研修会を開催し、拘束の内容や弊害等について、職員間で共有化を図っている。日中は、玄関を開放し、利用者にとって拘束感がないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者に関しては書面等で虐待防止に関する事項の周知を行い、職員に関しては朝礼時に日々の処遇について考える時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活支援を利用されている方がおられ関係機関と密に連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に詳細な説明を行い、今後起こりうる事もご家族に伝えた上で納得して頂いている。契約後も変更等がある場合は電話や書面で連絡し承諾を得てから変更等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様から日頃の支援の中から出た要望をすぐ次の日の朝礼時に話し合い対応している。ご家族さんに関しては入居時また支払い時や窓越し面会時などに意見を頂いている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等からは、面会時や電話の活用等で、意見等を得ている。出された意見について、職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼時に職員から出た意見はすぐに対応できるようリーダー等が管理者に伝え可能な限りすぐに対応できる体制を整えている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員が意見や提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。年1回、面談を実施し、個別の意見等を聞き取っている。申し送りノートも活用している。出された意見等は、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的に研修等の参加は行えるよう対応しており上の資格取って頂き、個人のスキルアップ、昇給、働きやすい環境が提供できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実践者研修や管理者研修等参加が行える環境を整え、個人又職員全体のスキルアップが図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設訪問が行えない現状ではあるも、電話等でコロナ感染対策や面会制限等の現状の情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメント時に不安に思っているところ聞き、パンフレットやHPを見て頂き、施設の風景を見て頂き、少しでも不安を除去できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	近年医療での心配ごとがご家族の方から寄せられる事が多く、医療面の体制の説明と要望があれば看取り支援も行える事を伝え、少しでも不安を除去できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態に応じた介護サービスが受けられるようGHの入居ありきでなく、サ高住またデイなども考え相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	近い関係を保ちながら、人生の先輩であることを忘れずに寄り添いながら共に生活が送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策として現在窓越したオンライン面会での対応となっているが、看取り支援の場合はDrに許可を取ってから感染対策をして居室内での面会が行えるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在外出等は行えない状況ではあるも、手紙のやり取りやオンライン等で馴染みの関係が継続できるよう対応している。	事業所では、利用者の馴染みの関係継続に向けて支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、馴染みの人や場所等の写真を活用したり、電話や手紙のやり取りを支援したりして、関係が途切れることのないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを大切にしながらも、日中共有部で過ごす時間も作り、ゲームなどで交流も図れる環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院等に入院された際は、地域連携室等と連携を図り密に連絡を取っている。他の施設へ移られた際はご家族やケアマネ等に近況の状態を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、ご家族の意向や希望になるべく沿えるよう職員同士で話し合い、医療面に関わってくる場合はNsや協力医療機関Drに相談して、本人本位に支援が行えるよう努めている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。表情の変化や仕草にも目を配り、見逃すことのないよう心がけている。また、家族等から情報を得つつ、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様ご家族の方に聞き取りを行ったリバックグラウンドを記入して頂き、情報収集を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しでも変化があれば朝礼時に話し合い、体調面の安定、残存機能を少しでも活かせるよう支援しADL面低下、認知症状進行防止が図れるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時に話し合い入居者様がより良い生活が送れるよう検討しケアプランの作成、モニタリングしている。ご家族の参加が行えていないが、電話や支払時や面会時等に現状の説明を行い、意見等も頂いている。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画書を作成している。必要に応じて、主治医や看護師など、専門職の意見も得ている。定期的に、計画を見直すとともに、随時、心身状況の変化に応じた見直しも行い、現状に即した計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の際は表情や行動等を記録し、少しでも変わった事があれば、申し送り時や朝礼時に話し合い職員同士で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人様、ご家族の意向があれば対応できるよう支援し、医療面に関わってくる場合はNsやDrに相談し、対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策にて施設の出入りは制限があるも感染状況をみながら地域の床屋さんに来ていただき散髪を行って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関Drが月～金往診に来られており精密な検査や入院等が必要な場合はまず、ご家族に状態説明し承諾を得てから主治医に紹介状を書いて頂き、総合病院を受診できる体制も整えている。	事業所では、協力医療機関がかかりつけ医となっている。毎日、協力医療機関からの往診があり、随時、健康に関して相談することができる。専門医等を受診する際は、事業所職員が付きそうなど、適切な医療受診に向けて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関Nsが常に配置されており、密に連携を図れており、夜間に関しても当番制で緊急時は連絡も取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療面に関しては主にNsが対応し、入院時等薬の準備やサマリーなど対応して頂いている。退院時は病院の地域連携室と密に連絡を取り病院のカンファレンスにも参加する場合もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明の際に重度化や終末期に関することも説明し、実際に終末期等迎えた際は、ご家族とDrが話し合い今後の対応を決定して職員に周知し医療、介護、ご家族様で最期の支援を行う。	事業所では、入所時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明している。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認しつつ、医師や看護師等と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はNsより手順を作成して頂いており、介護職員で対応できない場合は、Nsに連絡する体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を実施、地震、津波避難訓練も年1回実施している。当施設は福祉避難所となっており、備蓄等も行っている。	年3回、火災や地震、津波などを想定した避難訓練を実施している。地域の消防署と連携を図り、通報訓練も行っている。また、町から福祉避難所の指定を受けて、備蓄品等を整備し、地域の防災拠点のひとつとして役割の発揮に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の朝礼時や書面等で権利擁護について話し合いを行い、特に日常の声掛け等で気になった事があれば職員同士で話し合い、入居者様のプライバシーが守れるよう支援している。	事業所では、朝礼時の話しあいや文書等により、利用者の権利擁護について、職員間での共有化を図っている。職員は、日ごろの支援のなかで、プライバシーに配慮している。随時、声のかけ方など、職員間で気付いたことを確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症状進行により意思疎通を図るのが難しい場合があるも、表情や仕草などで思いを感じ取り職員同士で話し合い入居者様の思いや希望が可能な限り叶えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人様のペースで生活が送れるよう支援し、ゆっくりと過ごせる環境を整え、柔軟に対応できるよう職員同士でも話し合い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型など本人様、ご家族の趣味、意向を尊重し、更衣や整容、散髪など行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は一括して厨房で作っているが、季節に応じた献立を立て頂いている。GHでは入居者様の状態に応じた形態にし、食べやすい工夫している。また手づくりで焼きそばやお好み焼き等作る時もある。	食事は、併設の他サービス事業所で調理したものを提供している。ご飯や味噌汁は各ユニットで準備し、調理の音や香りを楽しむことができるようにしている。菜園の野菜を活用したり、利用者と一緒におやつを作ったりして、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Drより食事制限が出ている場合があり、Ns等に相談し、厨房とも連携を図り、塩分制限や代替食にて対応したり、カロリーが少ない場合はカロリーの高い食品を食べて頂き、栄養面がしっかり補えるよう対応する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行えない方やうがいが行えない場合は口腔ケア用のスポンジや歯磨きティッシュなどを使用し口腔内の清潔保持を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り残存機能を活かせるよう日中はトイレ介助等行い、オムツを使用せず対応している。尿量等をみながらその人にあったパット等を使用している。	事業所では、利用者一人ひとりの状態にあわせて、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間は、ポータブルトイレ等を活用しつつ、本人の意向にそったトイレ誘導に努めている。誘導の際には、無理強いせず、自尊心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく水分をとれるよう対応し、便秘が3日以上になればNsに報告し、浣腸や摘便等の検討を行ったり服薬で調整を行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の状態に合わせ、特浴の方が増えてきているが、立位が行える方は出来る限り一般浴で対応し、残存機能が活かせるよう支援している。季節に応じたゆずや菖蒲湯等行っている。	事業所では、週2回は入浴できるよう支援している。入浴拒否がある場合は、声をかける人や日時を変更するなど、本人の意向にそった支援に努めている。また、入浴剤やゆず湯、薔薇風呂を行うなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のペースに合わせ日中も横になって過ごせる環境を整え、集団だけではなく個人個人でも過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬等ないようにチェック体制を整え服薬介助時必ず名前と食後等の確認を声をだして行っている。服薬の変更等がある場合はNsから指示を仰げるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前や入居後のコミュニケーションの中で本人様の趣味などの情報を得て、日々の生活に活かせるよう職員同士で話し合い、共通して対応できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策として外出に関しては行えていないが、天候がよい時は施設前の公園に散歩に出かけたり、中庭のウッドデッキで日向ぼっこなどで気分転換を図っている。	事業所では、気候のよい日には、近隣の公園に出かけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、敷地内のウッドデッキを活用して外気浴を楽しむなど、戸外に出る機会を設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が管理する事はないも、必要な物が買いたい場合は施設がいったん立替で支払い、入居の支払い時と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人等と手紙のやり取りを行われる入居者様がおられ、ポストへの投函等の支援を行っている。又面会に関して制限がありオンラインでの面会も対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部は季節に応じた壁画等を作成し展示して季節感を味わって頂いている。コロナ感染対策として換気、アクリル板を設置し感染対策を図っている、	共用空間は、木造であり、木の温もりを感じることができる。壁面の飾りや中庭の花壇などから、季節を感じることができるよう工夫している。温度管理や換気等に配慮し、利用者が居心地よく過ごすことができる空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々で過ごせる時間を作り、リビングのソファで過ごす方もおれば、居室に戻り休まれる方もおられその方のペースを大切に、過ごして頂けるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の方写真やゆかりのあるものを置いて自宅で生活を送っているような環境を整えるよう対応し、入居者様の状態に応じた配置など職員同士で話し合い過ごしやすい空間を提供できるよう努めている。	居室には、布団やタンス、テレビ、家族写真など、利用者にとって馴染みのある物を持ち込んでもらっている。一人ひとりの状況にあわせて、家具の配置を工夫するなど、安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等リスクも考えながら出来る限り自身で行える環境を整え、不都合があればその都度話し合い改善し、残存機能を活かせるよう努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHIぼかぼか開所時の理念が法人の理念となっている。理念に沿った、温かみのある支援が行えるよう朝礼後に職員で唱和を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年に関してもコロナ感染対策として直接施設に訪問して交流は行えていないも、オンラインでの体操教室など隣接するデイサービスで行っていることに参加させて頂いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が最後まで住み慣れた地域で生活が維持できるよう、入居するしないに限らず相談対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年も感染対策の兼ね合いで議場での開催は行えていないも、推進委員の皆さんに施設での感染対策の取り組みや現状の説明を2か月に1回書面で報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町等提出物がある場合は、直接窓口を持っていき顔見知りの関係を作り、情報共有などを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼時に職員同士で話し合い、拘束なく快適に生活を送れているかの確認等を行っており、全体としても拘束に関する研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者に関しては書面等で虐待防止に関する事項の周知を行い、職員に関しては朝礼時に日々の処遇について考える時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活支援を利用されている方がおられ関係機関と密に連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に詳細な説明を行い、今後起こりうる事もご家族に伝えた上で納得して頂いている。契約後も変更等がある場合は電話や書面で連絡し承諾を得てから変更等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様から日頃の支援の中から出た要望をすぐ次の日の朝礼時に話し合い対応している。ご家族さんに関しては入居時また支払い時や窓越し面会時などに意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼時に職員から出た意見はすぐに対応できるようリーダー等が管理者に伝え可能な限りすぐに対応できる体制を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的に研修等の参加は行えるよう対応しており上の資格取って頂き、個人のスキルアップ、昇給、働きやすい環境が提供できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実践者研修や管理者研修等参加が行える環境を整え、個人又職員全体のスキルアップが図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設訪問が行えない現状ではあるも、電話等でコロナ感染対策や面会制限等の現状の情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメント時に不安に思っているところ聞き、パンフレットやHPを見て頂き、施設の風景を見て頂き、少しでも不安を除去できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	近年医療での心配ごとがご家族の方から寄せられる事が多く、医療面の体制の説明と要望があれば看取り支援も行える事を伝え、少しでも不安を除去できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態に応じた介護サービスが受けられるようGHの入居ありきでなく、サ高住またデイなども考え相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	近い関係を保ちながら、人生の先輩であることを忘れずに寄り添いながら共に生活が送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策として現在窓越したオンライン面会での対応となっているも、看取り支援の場合はDrに許可を取ってから感染対策をして居室内での面会が行えるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在外出等に行えない状況ではあるも、手紙のやり取りやオンライン等で馴染みの関係が継続できるよう対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを大切にしながらも、日中共有部で過ごす時間も作り、ゲームなどで交流を図れる環境も整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院等に入院された際は、地域連携室等と連携を図り密に連絡を取っている。他の施設へ移られた際はご家族やケアマネ等に近況の状態を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、ご家族の意向や希望になるべく沿えるよう職員同士で話し合い、医療面に関わってくる場合はNsや協力医療機関Drに相談して、本人本位に支援が行えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様ご家族の方に聞き取りを行ったりバックグラウンドを記入して頂き、情報収集を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しでも変化があれば朝礼時に話し合い、体調面の安定、残存機能を少しでも活かせるよう支援しADL面低下、認知症状進行防止が図れるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時に話し合い入居者様がより良い生活が送れるよう検討しケアプランの作成、モニタリングしている。ご家族の参加が行えていないも、電話や支払時や面会時等に現状の説明を行い、意見等も頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の際は表情や行動等を記録し、少しでも変わった事があれば、申し送り時や朝礼時に話し合い職員同士で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人様、ご家族の意向があれば対応できるよう支援し、医療面に関わってくる場合はNsやDrに相談し、対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策にて施設の出入りは制限があるも感染状況をみながら地域の床屋さんに来ていただき散髪を行って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関Drが月～金往診にいられており精密な検査や入院等が必要な場合はまず、ご家族に状態説明し承諾を得てから主治医に紹介状を書いて頂き、総合病院を受診できる体制も整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関Nsが常に配置されており、密に連携を図れており、夜間に関しても当番制で緊急時は連絡も取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療面に関しては主にNsが対応し、入院時等薬の準備やサマリーなど対応して頂いている。退院時は病院の地域連携室と密に連絡を取り病院のカンファレンスにも参加する場合もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明の際に重度化や終末期に関することも説明し、実際に終末期等迎えた際は、ご家族とDrが話し合い今後の対応を決定して職員に周知し医療、介護、ご家族様で最期の支援を行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はNsより手順を作成して頂いており、介護職員で対応できない場合は、Nsに連絡する体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を実施、地震、津波避難訓練も年1回実施している。当施設は福祉避難所となっており、備蓄等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の朝礼時や書面等で権利擁護について話し合いを行い、特に日常の声掛け等で気になった事があれば職員同士で話し合い、入居者様のプライバシーが守れるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症状進行により意思疎通を図るのが難しい場合があるも、表情や仕草などで思いを感じ取り職員同士で話し合い入居者様の思いや希望が可能な限り叶えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人様のペースで生活が送れるよう支援し、ゆっくりと過ごせる環境を整え、柔軟に対応できるよう職員同士でも話し合い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型など本人様、ご家族の趣味、意向を尊重し、更衣や整容、散髪など行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は一括して厨房で作っているも、季節に応じた献立を立て頂いている。GHでは入居者様の状態に応じた形態にし、食べやすい工夫している。また手づくりで焼きそばやお好み焼き等作る時もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Drより食事制限が出ている場合があり、Ns等に相談し、厨房とも連携を図り、塩分制限や代替食にて対応したり、カロリーが少ない場合はカロリーの高い食品を食べて頂き、栄養面がしっかり補えるよう対応する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行えない方やうがいが行えない場合は口腔ケア用のスポンジや歯磨きティッシュなどを使用し口腔内の清潔保持を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り残存機能を活かせるよう日中はトイレ介助等行い、オムツを使用せず対応している。尿量等をみながらその人にあったパット等を使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく水分をとれるよう対応し、便秘が3日以上になればNsに報告し、浣腸や敵便等の検討を行ったり服薬で調整を行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の状態に合わせ、特浴の方が増えてきているも、立位が行える方は出来る限り一般浴で対応し、残存機能が活かせるよう支援している。季節に応じたゆずや菖蒲湯等行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のペースに合わせ日中も横になって過ごせる環境を整え、集団だけではなく個人個人でも過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬等ないようチェック体制を整え服薬介助時必ず名前と食後等の確認を声をだして行っている。服薬の変更等がある場合はNsから指示を仰げるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前や入居後のコミュニケーションの中で本人様の趣味などの情報を得て、日々の生活に活かせるよう職員同士で話し合い、共通して対応できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策として外出に関しては行えていないも、天候がいい時は施設前の公園に散歩に出かけたり、中庭のウッドデッキで日向ぼっこなどで気分転換を図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぽかぽかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が管理する事はないも、必要な物が買いたい場合は施設がいったん立替で支払い、入居の支払い時と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人等と手紙のやり取りを行われる入居者様がおられ、ポストへの投函等の支援を行っている。又面会に関して制限がありオンラインでの面会も対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部は季節に応じた壁画等を作成し展示して季節感を味わって頂いている。コロナ感染対策として換気、アクリル板を設置し感染対策を図っている、		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々で過ごせる時間を作り、リビングのソファで過ごす方もおれば、居室に戻り休まれる方もおられその方のペースを大切に、過ごして頂けるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の方写真やゆかりのあるものを置いて自宅で生活を送っているような環境を整えられるよう対応し、入居者様の状態に応じた配置など職員同士で話し合い過ごしやすい空間を提供できるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等リスクも考えながら出来る限り自身で行える環境を整え、不都合があればその都度話し合い改善し、残存機能を活かせるよう努めている。		